社会科(地理的分野)学習指導案

活動場所	北校舎3階	1年2組	教室
生徒数	1年2組	男子16名 女子18名	計34名
指導者	教諭	二川	明信

1 単元名 「日本の構成は…」

2 単元について

本単元では、地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、領域の特色、地域区分などを取り上げ、国土の地域構成を大観させることを主なねらいとしている。このねらいの1つに、地球儀や地図を活用して、世界的視野から国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追究し、とらえさせていくことがある。そこで指導にあたっては、緯度と経度を使って我が国と同緯度、同経度の国々に着目させるなどして日本の絶対的位置や様々な相対的位置をとらえさせたい。また、海洋国家である我が国の特色を領域(領土、領海、領空)という観点から取り扱うことで理解させるとともに、我が国が当面する領土問題や経済水域の問題に気付かせていきたい。特に北方領土問題は、4つの島名・その位置と範囲を理解させ、我が国の固有の領土でありながら、ロシア連邦に占拠され、返還を要求している事実を理解させていきたい。

もう1つのねらいは、日本地図を活用し、日本の地域区分や都道府県の位置と名称などをもとにして日本の地域構成をとらえ、大まかな日本地図を描けるようになることがある。ここでの指導については、地域区分には、自然や文化や歴史などによるものが地域構成の一つとなっている47都道府県など大小様々な区分の方法があることを理解させ、それらを地図上でとらえる学習を通して、日本の全体像を大まかにとらえられるようにさせていきたい。また、東経135度の経線などに留意しつつ、日本を構成する主な島々の大まかな形状や位置関係が分かる程度の略地図が描けるようにさせていきたい。

これまでの学習状況をみると、ほとんどの生徒が、日本の位置、形や北方領土という名称、九州地方の県名や位置について、ある程度理解しており、すべての都道府県名と場所がわかっている生徒は、各学級の約7割程(20名前後)と推測される。しかし、七地方の区分は大まかに理解しているものの、世界の国々と日本との位置関係については、あまりできていない。また、日本の周囲の海洋名や近隣の国々の国名は理解しているが、その位置を示せない生徒が多い。日本の領土の正確な範囲や領土問題に関してどのような問題を抱えているのか理解できていない等の特徴がみられる。このように生徒たちは、地球儀や地図などの活用を苦手としており、知識が断片的で社会的事象間の関連についてよく理解していないため、思考力・判断力・表現力がなかなか育たない現状である。

そこで本単元の指導の手だてとして、地球儀や地図を活用し、課題解決的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるための重要語句カードの活用やリードカードの工夫を図ることで、思考力・判断力・表現力を身に付けさせていきたい。

3 単元の学習目標

- (1) 作業的な学習を通して、日本の位置や特色、都道府県庁所在地の成り立ちや歴史的な区分の変化について関心を持ち、自ら進んで調べ、意欲的に学習することができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 日本の位置や領域の特色を地球儀や地図を活用しながら多面的・多角的に追究し、考察することができる。(思考・判断)
- (3) 大まかな日本地図が描け、日本の位置や領域の特色を地球儀や地図を活用してまとめたり、発表することができる。(技能・表現)
- (4) 領域の定義や日本の位置及び領域の特色と変化、日本が当面する領土問題や経済水域の問題、日本の様々な地域区分や都道府県名・都道府県庁所在地の位置と名称を理解することができる。(知識・理解)

4 単元の学習計画及び評価規準

時 間	学習の内容	評価規準
1	1 日本のまわりにどんな国がある？ ○ 近い国, 遠い国 ○ 日本の位置を表す	◆ 日本の大まかな特色について関心を持つことができる。(関心・意欲・態度) ◆ 近い国, 遠い国, 近接する海洋との位置関係を具体的に挙げることで, 日本の位置的特色について述べるができる。(技能・表現) ◆ 日本の位置や領域の特色を地球儀や地図を活用しながら, 多面的・多角的に追究し, 考察することができる。(思考・判断)
2 本時	2 日本の国土の広がり？ ○ 日本は島国 ○ 北方領土の問題	◆ 領域の定義や日本の国土の領域の特色と変化, 日本が当面する領土問題や経済水域の問題を理解することができる。(知識・理解) ◆ 日本の国土の領域の特色と変化を地球儀や地図を活用しながらまとめ, 発表することができる。(技能・表現)
3	3 日本を区分してみると ○ 文化や自然によって ○ 都道府県をもとに	◆ 日本は自然区分や文化区分などによって, 様々な地域に区分できることを理解することができる。(知識・理解) ◆ 歴史的な区分の変化を意欲的に地図を活用しながら活動することができる。(関心・意欲・態度)
4	4 都道府県を知る 5 都道府県庁所在地はどのように ○ 都道府県庁所在地と城下町 ○ 成り立ちを調べてみよう	◆ 都道府県名・都道府県庁所在地の位置と名称を理解することができる。(知識・理解) ◆ 都道府県庁所在地について, 成り立ちに関心を持つことができる。(関心・意欲・態度)
5	6 日本地図を描いたり, 出来上がった地図をもとに分布図を作成しよう。	◆ 日本全体の形の特徴を領域や東経135度を意識しながらとらえ, 大まかな日本列島の略地図を描いたり, 見やすい分布図の作成をすることができる。(技能・表現)

5 本時の実際 (2 / 5)

(1) 題材名

「日本の国土の広がりは？」

(2) 学習目標

- ア 領域の定義や日本の国土の領域の特色と変化, 日本が当面する領土問題や経済水域の問題を理解することができる。(知識・理解)
- イ 日本の国土の領域の特色と変化を地球儀や地図を活用しながらまとめ, 発表することができる。(技能・表現)

(3) 授業設計の視点

ア 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる学習指導の工夫

本時の授業では, 基礎的・基本的な知識を確実に習得させるため, ワークシートをまとめさせながら, 重要語句を理解させ, 終末段階に本時で学んだ重要語句について確認し, 知識を確実に習得させるために重要語句まとめカードを活用する。この重要語句まとめカードは, 教科書で取り扱われている重要語句やその説明, ページ番号等があらかじめ記載されている。生徒たちに, その重要語句と説明を読ませながら, 教科書にアンダーラインを引かせることで重要語句の再確認をさせる。ここでは, 領域の定義, 北方領土問題について, 重要語句カードを活用し知識を確実に習得させたい。

イ 思考力・判断力・表現力を身に付けさせる課題解決的な学習の工夫

思考力・判断力・表現力を身に付けさせるために, 課題解決的な学習の工夫を行うことが必要であると考えた。諸資料をもとに, 理解したことを重要語句と関連させながら, 自分の言葉でまとめ, 地球儀や地図などを活用し, 発表する学習活動を工夫する。そこで, 生徒の思考をうまく導いていくために, 資料や内容のどこに着目して書けばいいのか, 支援しながらその視点を明確できるようなリードカードの工夫を図りたい。

ここではリードカードを活用して、領土と経済水域の関係から沖ノ鳥島を大切に守る理由や日本の国土の領域の特色と変化について理解させ、自分の言葉でまとめさせるとともに、まとめた結果を発表させる学習活動の充実を図りたい。

(4) 授業の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点と研究の視点(◆は評価項目)
導入	5分	<p>1 どうして無人島である沖ノ鳥島を工事したのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・その島が何か重要であるから ・島が消えると困ることがあるから </div>	<p>1 工事前と工事後の沖ノ鳥島の写真を見せ、気づいたことを取り上げながら、関心を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・300億円かけて工事した。 ・どの都道府県にあるのだろう。 ・この島にも住所がある。
		日本の広がりには、どのような特色があるのだろう。	
展開	5分	<p>2 領域の定義について学ぼう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・領土・領空・領海・12海里 ・公海・経済水域・200海里 ・1海里=約1.85km </div>	<p>2 国にはその範囲が決められており、図を完成させることで重要語句を理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領海の範囲は干潮時を基準に計測した。 ・経済水域は水産資源や鉱産資源の領有権がある。 ・領海・領空は、その国の許可がないと入れない。
	10分	<p>3 日本の領土やその特色を知ろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 日本の領土</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最北端：北方領土(北海道) (歯舞諸島, 色丹島, 国後島, 択捉島) ・最東端：南鳥島(東京都) ・最南端：沖ノ鳥島(東京都) ・最西端：与那国島(沖縄県) <p>② その他の特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弓形の島国で南北に3000km ・国土面積約38万k㎡(世界第60位) ・6800あまりの島々 ・領土より経済水域が広い(約12倍) </div>	<p>3 地図帳や教科書を参考に生徒同士が教え合いながらまとめさせ、教師が確認していく。</p> <p>① 地図帳の写真から各島の特色を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どれぐらいの大きさか。 ・どの都道府県に属しているか。 <p>② 教科書から日本の特色を読み取らせ、補足説明をしながら理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弓形の島国である。 ・国土面積世界第60位である。 ・6800あまりの島々 ・日本の経済水域は、国土の約12倍の面積がある。 <p>◆ 領域の定義や日本の国土の領域の特色と変化、日本が当面する領土問題や経済水域の問題を理解できる。(知識・理解)</p>
	8分	<p>4 沖ノ鳥島をなぜ工事する必要があるのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領土が減るから ・日本の経済水域が減るから </div>	<p>4 領土と経済水域の関係から理解したことを自分の言葉でまとめ、発表させる。その際、1つの島がなくなると、日本の国土面積より広い、約43万k㎡の経済水域がなくなること気付かせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">視点 イ</p> <p>思考力・判断力・表現力を身に付けさせる課題解決的な学習の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リードカードの活用の工夫 </div>

展 開	7 分	<p>5 日本が当面する領土問題について知ろう。</p> <p>① 北方領土問題について</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・北方領土は日本の領土であり、返還を要求しているが、未だ解決していない。 </div> <p>② その他の領土問題について</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・竹島問題(韓国との関係) ・尖閣諸島問題(中国などとの関係) </div>	<p>◆ 日本の国土の領域の特色と変化を地球儀や地図を活用してまとめ、発表することができる。(技能・表現)</p> <p>5 日本では、未解決の領土問題があることを理解させ、特に北方領土問題は、再度、島名や位置を確認し、歴史的背景を簡潔に説明しながら、現状について理解させる。</p> <p>① 北方領土問題(歴史的背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1854年日露和親条約(北方領土は日本のもの) ・1945年太平洋戦争末期、ソ連が北方領土へ侵攻 ・1956年日ソ共同宣言 <p>② 北方領土問題以外にも近隣の国との間に未解決の領土問題があることを理解させる。</p> <p>◆ 領域の定義や日本の国土の領域の特色と変化、日本が当面する領土問題や経済水域の問題を理解できる。(知識・理解)</p>
	10 分	<p>6 日本の広がりには、どのような特色があるのだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・周囲を海で囲まれた海洋国家日本は、南北に長く、弓形で多くの島がある。経済水域の面積の方が広く、領土が狭くなると経済水域にも影響がある。北方領土問題をはじめとする、未解決の領土問題が他にもある。</p> </div>	<p>6 これまでの授業を通して、日本の広がりについて理解したことを自分の言葉でまとめさせ、地図を活用しながら発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領土やその特色 ・領土と経済水域との関係 ・北方領土問題 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>-----視点 イ-----</p> <p>思考力・判断力・表現力を身に付けさせる課題解決的な学習の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リードカードの活用の工夫 </div> <p>◆ 日本の国土の領域の特色と変化を地球儀や地図を活用してまとめ、発表することができる。(技能・表現)</p>
終 末	3 分	<p>7 授業の重要語句をまとめカードを使って教科書を見ながら、再確認していこう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・領域の定義・日本の領土の範囲 ・北方領土問題 </div>	<p>7 教科書に線を引かせて、重要語句カードを配布して、理解させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>-----視点 ア-----</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる学習指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要語句まとめカードの活用 </div>
	2 分	<p>8 自己評価を行う。</p> <p>9 次時の予告を行う。</p>	<p>8 自己評価カードを使って記入させる。</p> <p>9 日本は、降水量の分布などでも区分できることを伝え、他にどのような区分ができるのか関心を持たせる。</p>